

○資産運用委員会(開催状況)

開催年月日	概要
平成30年3月14日	オルタナティブ商品の運用終了等に伴い代替商品の検討の結果、三菱UFJ信託銀行のマルチアセット（5億円）と三井住友信託銀行のバンクローン（5億円）の採用が承認された。
平成30年10月10日	オルタナティブ商品の運用終了等に伴い代替商品の検討の結果、プライベートエクイティの中から三菱UFJ信託銀行のハーバーベスト(5億円)と大和ファンド・コンサルティングのレキシントン(5億円)の採用が承認された。
平成30年12月12日	直近の運用状況について大和ファンド・コンサルティングの担当者より報告があった。 (11月末の運用実績は通期で0.22%)
平成31年4月10日	直近の運用状況について大和ファンド・コンサルティングの担当者より報告があった。 (3月末の運用実績は通期で0.60%)
令和元年7月10日	直近の運用状況について大和ファンド・コンサルティングの担当者より報告があった。 (6月末の運用実績は通期で0.49%)
令和元年11月13日	国内債券代替として三菱UFJ信託銀行のピムコインカム戦略型と外国株式にモルガンスタンレーグローバル・フランチャイズをオルタナティブのマルチアセットとして第一生命保険の第2総合口をそれぞれ採用することが承認された。
令和2年1月22日	資産運用委員会組織の一部変更について承認された。理事会から独立し、より実態にあったものとして資産運用全般に関し検討、審議をし理事会に助言、答申するものとする。 大和ファンド・コンサルティングの商品（株式ロングショート）の一部見直しについて承認された。
令和2年6月17日	令和元年度運用結果は、-1.78%となった。結果として、当年度不足金約9億円(推計)発生する見込み。 令和2年度の運用については、分散投資・時間分散投資によるリスク軽減効果を維持、また、ファンドの見直しの検討をする。(5月末の運用実績は通期で4.25%)
令和2年10月21日	令和2年9月末の運用状況については、4月からの累計でプラス7.11%となった。 外国債券のアクティブファンドが大口顧客の解約により運用残高が減少し、今後も解約が続けばファンド閉鎖の可能性があり、その際解約に時間を要することから、同等ファンドに変更することで承認された。 運用の安定化を図るため昨年度に引き続き、分散化の未実施資産について運用環境を考慮の上、新規採用候補の選定を進めていくことで承認された。 オルタナティブ運用の一部ファンドの資金回収が進行しており、運用終了となることを見据えて、新たな運用戦略及び新規採用候補の選定を進めていくことで承認された。
令和2年12月9日	令和2年11月末の運用状況については、4月からの累計でプラス10.0%となった。 第一生命の一般勘定の利下げ（令和3年10月より1.25%から0.25%）について、今後、取扱いについて検討することとなった。 令和3年3月末基準で年金財政の再計算を実施することに伴い、併せて年金運用にかかる年金資産と年金負債の将来見込みの分析を行い、政策アセットミックスの見直しの必要性をチェックする「年金ALM」分析を実施することが承認された。 運用の安定化を図るため昨年度に引き続き、分散化の未実施資産について、主に日本株式及び外国債券のアクティブファンドを中心に運用環境を考慮し、複数の新規採用候補を提案し、選定することが承認された。 オルタナティブ運用の一部ファンドの資金回収が進行しており、運用終了となることを見据えて、新たな運用戦略及び新規採用候補の選定を進めていくこととしていたが、「年金ALM」の実施を予定していること、また低流動性の運用商品もあることなどから、慎重な対処が必要とされ、「年金ALM」分析の結果を受けて新規採用候補の検討を行うことにより、来年度に向けて検討継続することで承認された。